

令和6年 オルト保育園 研究発表

研究発表の流れ

年間を通して0-5歳クラスにおいて、東京都すくわくプロジェクトに伴い、探究活動を行っている。現在までの状況で、ABのリーダー層で話し合い4歳児クラスを研究発表として発表するにいたりました。

クラス担任が資料を作成し、職員会議にて発表を行い、参加した職員による振り返りを行い、そこでの感想や疑問等を受けて再度、クラス担任と副主任で振り返りを行った記録を発表いたします。

なお、資料上、他者が見るにあたり、訂正等も考えましたが、実際に振り返っている様子がわかるように手書きや付箋等を貼ったままで発表いたします。

表現や誤字脱字等もあり、非常に見にくいかもしれませんが、ご了承ください。

テーマ「色」

子どもの姿を踏まえ、どうしてこのテーマになったのか

制作をする中で絵の具でピンク色を作った際にそれぞれのイメージする色が異なり、意見の食い違う姿が見られた。様々な色があるということを発見する中で他者との違いを感じ、互いに認め楽しんでほしいと感じた為。

育てたい子どもの姿（年齢別保育目標に基づいたねらい）

- 友だちと関わり合いながら一緒に活動する楽しさを味わう
- イメージする色を、自分で色を作り、色の違いを楽しむ
- 用具に慣れ、工夫して遊ぶ

保育士がすべきこと（ねらいを叶えるための環境・配慮点）

- 子どもの様子を見守りながら必要に応じて仲立ちになり自分の思いを伝えたり、思いを聞いたりできるような関わりをする
- 用具の使い方を伝える際に、子どもが経験しながら学べるようにしていく
- 絵の具、筆、紙等必要なものを十分に用意しておく



環境設定

17人で行うこと、アトリエという閉鎖的空間で行うこと

一人ひとりの思いを受け止めたり、
友だちとの関わりが落ち着いてで
きるようにアトリエ内で小グルー
プ（5～6名）で行う



色について、イメージがしやすい
ように、好きなもの等を考えてみ
る。
カメラを使って、自分が発見した
ものを記録に残して振りかえやす
いようにする

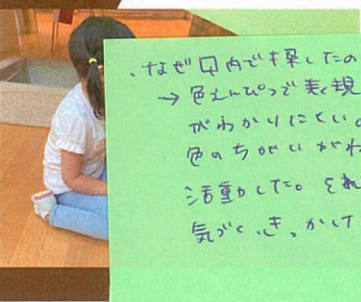
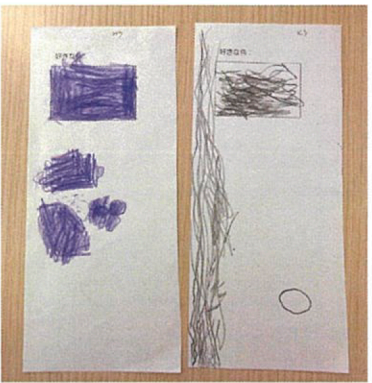
子ども達がイメージしやすいように
絵で表わせるよう紙を渡して自由に表現できるようにして

色探し

1グループ・2グループ

ねらい

- 好きな色を選び、身の回りでその色のものを探す。
- 身近なものの色に注目しようとする。



なぜ園内で探したのか？
→色んなものが表現していたから、色の濃淡がわかりにくい。それを園内で探すと色のちがいがわかりやすくなった。思いっきり書き込んで、それによって、色の濃さを表現することができたため。

活動の様子・子どもの姿の考察

好きな色を思い浮かべ、絵で描いてみるように声をかけると、子どもたちにとって親しみのある食べ物や環境、キャラクターなどを思い浮かべ、言葉にしていた。

「ぶどう」
「夜の空、あとは髪の毛」
「うみとそらと…あとなにかがあるな？」
「みずとか？」
「スパイダーマン」

イメージが浮かびにくい子どもには保育士と一緒に考えたり、友だちからヒントをもらうなどして会話を交えながら考えていった。

保育士から好きな色が園内にあるか探してみようと言をかけると選んだ色と同じ色のものを園内で探し始めた。

子どもがみつけたものを保育士が写真にとる。

「この赤うすいね」
「これピンクじゃない？」
「これは紫？」
「薄い黒もあった」

色の濃さ・薄さなどに注目する姿があった。

振り返り

- 少人数で行うこと・アトリエという閉鎖的な空間で行うことで、子ども同士の対話が促されていたり、集中する姿があった。
- 身近な物や好きなキャラクター等を考えたり、見たりすることで、色の違いや様々な色があることに気づく姿がある為、今後は自身で作っていくと、より楽しさや色への興味が深まるのではないかな。

絵でなぜ表現させたのか？
→子どもたちがイメージしやすいようにしたかった。身近にあるもののイメージして思い浮かべたイメージで子どもが自由に表現できるようにして実際に描くことで子どものイメージしているものが絵として残る。また、日が経てば子どもがイメージしたものを思い出しやすい、またそこからイメージが広がっている

色探し 3グループ・4グループ

ねらい

- 好きな色を選び、身の回りでその色のものを探す。
- 身近なものの色に注目しようとする。



活動の様子・子どもの姿の考察

保育士が好きな色を選び、その色のものを思い浮かべ、絵で描いてみるように声をかけると、子どもたちにとって親しみのある食べ物や環境、キャラクターなどを思い浮かべ、言葉にしていた。

「りんご。」
「桃があるけど描けないんだよね」
「ハートでいっか。あと宝石とか？」
「ぶどうがあるけど描けない」
としばらく手が止まる。他児がハートを描くのを見て真似して描いてみる姿があった。

保育士から好きな色が園内にあるか探してみようと声をかけると選んだ色と同じ色のものを園内で探し始めた。

カメラを持って探しに行った。園庭も探しに行きたいと声があがる。

「5歳さんのリュック」「ピンクの布があった」
「Jちゃん赤ここにあるよ」「パプリカもあった」
「Kくん紫あったよ。こっちも…」
「あっちに（園外 道路）あった！」
「プールの宝石 紫だよ」

友だちと様々な会話をしながら楽しむ様子が見られた。

①予定より時間を短縮して、園内に探しに行こうと提案した。イメージしてものを思い出さないために保育士が文字がキコクに残した。そうすることで集中して探す活動が続けることができた。

振り返り

- ①選んだ色のものなかなか思い浮かばない様子が見られたが、
- ②子どもたちのやりとりを大切に、保育士が行き先を決めたり声を掛けすぎることのないように意識していった。また探す時間を長くしていったことで自分の色だけでなく、友だちの探している色と一緒に探そうとするなど、協力して探す姿が見られた。

- 子どもが見つけたものを自身で写真に撮れるようにしたことで、意欲的に探す姿が見られ、カメラを持っていたことで子どもが見つけた色をすぐに写真に撮れたことで色探しを楽しんでいた。

カメラを渡したことで大人の気がかり、子どもが自分のものを撮ることになった。園庭のものを狙って撮る姿があった。

色探しを終えて

色探しを終えて、子どもたちがどのような姿や思い、考えていることなどがあり、色づくりになったのかを明確に。
保育士が提案したのか、子どもの声があったのか、

- ・ 色のおうたに気がいた
- ↓
- ・ 色
- ・ アトリエでやったことで特別な活動だと思われ、その中で完結してしまった

色作り大人在案

テーマを決める時に色づくりのことをき、かいてメモした
いきなり色づくりより、何となく色が あつてきて
家々、たいど態で色づくりができてきつていふのをきいた

絵の具の経験がなかったからさせた
混ぜ色があったり、色のちがいがわかりやすいのは
絵の具だったから活動に取り入れた
絵の具の方が色のちがいがわかりやすいからでは？
言葉カードの手型を板に貼って見せるを見て、
「いいな」と言ってくれるもあった

色づくりをしていたところぞ
ピン

色づくり

前回の活動で振り返りをして

(ピンクを指したから)「ピンクをフックしてみよう、と話をのけて

紙に1枚に前の活動で描いた写真を、まわりの色で視覚的にわかりやすく、色の違いを板書して色づくりに使った。

ねらい

- 色の移り変わりを自分で作ることの楽しさを知る。
- 友だちと一緒に活動する中で協力したり、意見を共有したりする。

活動の様子・子どもの姿の考察

他児との違いに気づいたり、同調したりと関わりが持てるように2人組で行っていった。

“ピンク色のもの”の紙を見ながら気付いたことや思ったことを話す。

写真(42-22本 89)

「ピンクがいっぱいある。でもちょっと違うね」
保育士がどのように違うかを聞く。

濃いピンク色を指して「こっちは少し黒い」

「これとこれは紫に見える」

「これは薄いピンクだね」

「赤と白を混ぜるんだよ」

「私、白するから、Nは赤をお願い！」

2人で一色ずつ混ぜていく。

パレットに色を出してそれぞれピンク色を作る。

「できた、ほら可愛いピンクでしょ」

自分が作ったピンク1、2色で描く。保育士が子どもの作った絵の具をもらって一緒に描く。

その様子を見て、

「Sくんのピンクも混ぜたら可愛い」

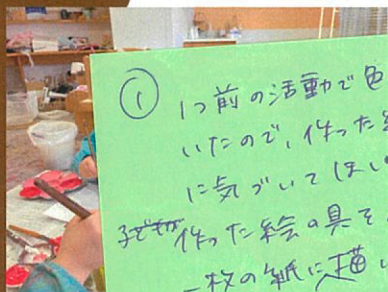
「どれ？Sくんちようだい」

真似して自分の紙に友だちのピンクをもらって描いて楽しんでいる。
ピンクを混ぜることで気づき、楽しんでいた。

振り返り

- 保育士も一緒に行ったことで、友だちの絵の具をもらって描くことに発展し、色の違いを発見し楽し活動していた。

- 保育士から声をかけ過ぎず見守っていくと、色の違いや、混ぜていく時の色の変化に気づき、子ども同士で話す姿があり、楽しさを感じているようだった。



① 1つ前の活動で色の違いに気づいていたので、作った絵の具でその色に気づいてほしいと思った。そのため、作った絵の具を保育士がもらい、一枚の紙に描いていった。
子どもは、ちがいが、しかし、自分の作ったピンクでかわっていたため、



保育士が声をかけてよいと子どもから声があからましかった。

色づくりをしてみよう

色づくりをしてみよう

絵の具が好きなことを楽しんでいる。

色づくりだけでなく、絵の具を楽しんでいる。

子どもの活動が完結していることや、手や足が重なり、

子どもの活動が止まってしまった → 保育士からのアプローチをしよう。

絵の具を楽しんでいることや、手や足が重なり、

思いっきりで、子どもの絵にしよう。

どうして
キャンパスにしようか。

○キャンパスに好きな色を表現する ねらい

- 好きな色を作り、表現することを楽しむ。

保育士が面白そうに楽しんでいる。

子どもにも経験させてあげたい。

自然な姿をそのまま表現してあげたい（板を出してあげたい）

子どもの絵の具が好きなことを楽しんでいる。

→ 手洗いの時石鹸を沢山出して手を泡だらけにする。

行事がある → アプローチをしよう。

日頃の姿として…

- 手洗いの時石鹸を沢山出して手を泡だらけにする。水道で水を溜めて水遊びをする。→ 声を掛けるまで楽しそうに続ける
 - 糊の入れ物に5本指を入れ、ぐちゃぐちゃと感触を楽しむ
- 年カ3歳「五感を使った経験をし、その中に面白さや不思議さを感じて楽しむ」の段階なのでは？

○ボディーペインティング (5、6人ずつ) ねらい

- 絵の具の感触の面白さや不思議さを感じる。
- 手や足に絵の具を付けて大きな紙に表現してみる。
- 活動の時には毎回白いTシャツを着て行うことで、活動を楽しんだ過程や時間の経過、経験の積み重ねの振り返りをする。

職員会議での振り返り

グループで分けるねらいは何か？

色のテーマからは違ったテーマになった。

嗅覚（五感）を使った姿

子どもの姿からねらい・環境設定を明確にした方がよいのではないか

少人数での活動で子ども同士の関わりや保育士がしっかり対応ができたのではないかな

それぞれの違いを認める関わり・視点があった。

振り返りが保育士の行ったことになっている。子どもの姿をどうとらえ、次に生かすかを記載する必要がある。

友達同士の関わりが深まっていくかも

子ども同士での対話が促された。



- ・グループ分けをどうしていったのか
→ 大人がその時いる
絵の具に対して積極的なと消極的なとのバランスを見て
- ・別のグループにきょうめを示す
→ あきたつ 通りがかった時に「赤いければいいじゃない」とアドバイスしていた
- ・ボディペインティングをする時に 汚れていい服もってきている
- ・活動の中で 思いやりやらせるのは案じよう
- ・絵の具の量を変えた → 環境とアプローチによって変わる
- ・大人の見通しはあるが、子どもからゴールに近づいていくのか？
- ・今の子どもを捉えて取り組めた活動がよかった
- ・考察、振り返りがもっと ねらいに 対してあるといい
- ・子どもが思考マインドながらやっている姿がある
- ・子どもが何を求めているところをもっと書いていった方がいい
- ・去年の姿を振り返りながら
- ・仮定を考えて協力する姿がある
- ・1人ずつで見るのはよかった 色に探求する
アトリエという静かな環境でやったのはよかった
- ・こういう姿がねと思っちゃった、こっちだったというのは
保育士が気づけてよかった
- ・同じ色でも違う色があるというのは他グループでも見られる
- ・子どもにカメラを持ってもらうことで気づけることもある
- ・子ども同士で話すことで

- ・Tシャツを見、前のことを振り返れる
- ・感触から始めるなら 他のものでよかったのか？
ただ「バラの（においがする）絵の具をかいで
という姿もあったので、よかった
- ☆色を探求する環境を整える

こういう様々な発見があった

こういうことがあった

ポイントとして

いおり → 五感を刺激したことに対して
考察

色 と 感触

いおり